

1	.			私	の	携	わ	っ	た	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴						
1	.	1		プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	と	し	て	の	特	徴									
	私	が	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	リ	ー	ダ	と	し	て	携	わ	っ	た	の	は	、	所	属	す
る	医	療	機	器	製	造	メ	ー	カ	A	社	の	図	面	管	理	シ	ス	テ	ム	を	P	D	M
シ	ス	テ	ム	に	移	行	す	る	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	で	あ	る	。						
	体	制	は	私	の	所	属	す	る	A	社	の	情	報	シ	ス	テ	ム	企	画	室	、	利	用
者	で	あ	る	業	務	部	門	、	製	造	と	テ	ス	ト	を	行	う	ベ	ン	ダ	2	社	(	B
社	と	C	社	)	か	ら	構	成	さ	れ	る	。												
期	間	は	要	件	定	義	か	ら	カ	ッ	ト	オ	ー	バ	ま	で	1	1	ヶ	月	、	規	模	は
5	0	0	人	月	で	あ	り	、	費	用	は	5	億	円	で	あ	る	。	現	在	、	5	年	ぶ
り	新	製	品	が	企	画	さ	れ	て	お	り	、	そ	の	設	計	業	務	が	開	始	さ	れ	る
ま	で	に	は	、	P	D	M	に	よ	る	業	務	推	進	体	制	を	安	定	的	化	さ	せ	る
必	要	が	あ	る	。																			
	P	D	M	導	入	の	目	的	は	、	既	存	シ	ス	テ	ム	で	の	紙	図	面	を	管	理
す	る	こ	と	に	よ	り	生	じ	て	い	た	以	下	の	問	題	を	、	設	計	業	務	の	見
直	し	に	よ	り	改	善	す	る	こ	と	で	あ	る	。										

1	.	電	子	原	本	化	の	実	現	に	よ	る	業	務	効	率	と	監	査	対	応	の	改	善		
2	.	国	内	5	拠	点	の	サ	ー	バ	集	約	に	よ	る	コ	ス	ト	削	減						
3	.	デ	ー	タ	を	手	入	力	に	よ	る	デ	ー	タ	品	質	の	問	題	の	解	消				
1	.	2		プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	品	質	目	標												
		導	入	の	目	的	か	ら	展	開	し	た	P	D	M	シ	ス	テ	ム	の	品	質	目	標	は	
2	つ	あ	っ	た	。																					
		ま	ず	は	ユ	ー	ザ	の	業	務	が	効	率	的	に	行	え	る	シ	ス	テ	ム	で	あ	る	
		こ	と	で	あ	る	。	図	面	管	理	シ	ス	テ	ム	と	同	等	の	機	能	は	、	既	存	シ
		ス	テ	ム	と	同	等	の	性	能	、	新	機	能	は	応	答	時	間	を	3	秒	以	内	に	す
		る	こ	と	で	あ	る	。																		
		次	に	、	デ	ー	タ	品	質	の	確	保	で	あ	る	。	機	能	が	過	去	デ	ー	タ	の	
		品	質	に	大	き	く	影	響	さ	れ	る	。	既	存	シ	ス	テ	ム	の	デ	ー	タ	品	質	を
		チ	ェ	ッ	ク	し	、	シ	ス	テ	ム	で	対	応	す	る	範	囲	と	業	務	で	対	応	す	る
		範	囲	を	切	り	分	け	、	業	務	の	正	と	な	る	図	面	デ	ー	タ	と	の	付	き	あ
		わ	せ	に	よ	り	、	図	面	作	成	業	務	の	全	パ	タ	ー	ン	で	問	題	が	出	な	い
		こ	と	で	あ	る	。																			

1/3

400

氏名：

問：平成○年度 問○ 設問イ

2/3

は	電	子	デ	ー	タ	と	し	て	管	理	し	た	い	と	い	う	要	求	が	あ	り	、	デ	ー	
タ	登	録	の	観	点	で	品	質	確	保	が	難	し	い	こ	と	が	判	明	し	て	い	た	。	
2	.	2		品	質	計	画	に	盛	り	込	ん	だ	阻	害	要	因	の	対	応	策				
1	)	パ	フ	ォ	ー	マ	ン	ス																	
	P	D	M	で	使	わ	れ	る	デ	ー	タ	構	造	、	機	能	を	把	握	し	て	い	る	技	
術	者	と	業	務	要	求	に	詳	し	い	担	当	者	を	交	え	技	術	検	討	を	実	施	し	、
パ	フ	ォ	ー	マ	ン	ス	と	業	務	の	観	点	か	ら	非	同	期	処	理	な	ど	で	の	検	
討	を	実	施	し	た	。	シ	ス	テ	ム	の	処	理	が	完	了	し	な	く	て	も	良	く	な	
っ	た	の	で	業	務	上	問	題	が	な	い	レ	ベ	ル	に	な	る	こ	と	を	確	認	す	る	
こ	と	に	し	た	。																				
な	お	、	非	同	期	処	理	に	つ	い	て	は	、	エ	ラ	ー	処	理	な	ど	画	面	の	挙	
動	な	ど	に	も	影	響	す	る	の	で	個	別	機	能	に	つ	い	て	も	ユ	ー	ザ	と	認	
識	合	わ	せ	を	す	る	こ	と	に	し	、	技	術	的	な	対	策	で	は	解	消	で	き	な	
い	問	題	点	は	、	業	務	プ	ロ	セ	ス	の	見	直	し	な	ど	に	よ	り	、	シ	ス	テ	
ム	パ	フ	ォ	ー	マ	ン	ス	が	業	務	の	時	間	に	影	響	し	な	い	か	を	業	務	側	
の	K	P	I	で	あ	る	生	産	リ	ー	ド	タ	イ	ム	の	観	点	で	外	部	設	計	ま	で	

氏名：

問：平成○年度 問○ 設問イ

3/3

に	検	証	を	行	っ	て	同	意	を	得	た	。												
	ま	た	、	サ	ー	バ	集	約	に	よ	る	パ	フ	ォ	ー	マ	ン	ス	問	題	は	他	事	業
部	の	P	D	M	を	使	っ	た	ウ	ォ	ー	ク	ス	ル	ー	に	よ	り	早	期	の	段	階	で
洗	い	出	し	を	実	施	す	る	こ	と	に	し	た	。										
2	)	デ	ー	タ	品	質																		
	要	求	内	容	と	デ	ー	タ	移	行	と	の	関	係	を	早	期	に	洗	い	出	し	、	問
題	が	で	そ	う	な	内	容	を	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	最	初	に	確	認	す	る	こ	と
に	し	た	。																					
図	面	デ	ー	タ	を	O	C	R	処	理	な	ど	で	対	応	で	き	る	内	容	を	技	術	者
に	既	存	シ	ス	テ	ム	の	デ	ー	タ	を	使	っ	て	確	認	さ	せ	、	対	応	が	不	可
能	な	内	容	を	切	り	分	け	た	。														

1/2

400

氏名：

問：平成○年度 問○ 設問ウ

2/2

う	に	よ	り	認	識	ズ	レ	が	起	こ	り	難	く	す	る	工	夫	を	し	た	。			
	業	務	機	能	に	お	け	る	非	同	期	処	理	は	要	求	か	ら	想	定	さ	れ	る	重
要	な	機	能	を	個	別	の	技	術	検	討	を	行	い	品	質	の	確	保	を	す	る	と	共
に	、	そ	の	結	果	を	重	要	機	能	の	ウ	オ	ー	ク	ス	ル	ー	に	お	い	て	、	ユ
一	ザ	に	レ	ビ	ュ	ー	し	た	。															
デ	ー	タ	移	行	に	お	け	る	○	Ｃ	Ｒ	の	正	確	性	は	既	存	シ	ス	テ	ム	の	実
デ	ー	タ	を	使	っ	て	技	術	検	証	す	る	こ	と	に	よ	り	、	そ	の	実	現	性	を
確	認	し	、	技	術	的	な	対	応	が	不	可	能	な	デ	ー	タ	は	そ	の	デ	ー	タ	を
初	め	て	使	う	時	に	ユ	ー	ザ	に	注	意	を	促	す	機	能	を	追	加	し	て	製	品
品	質	を	確	保	で	き	る	か	を	、	業	務	側	も	含	め	た	ウ	オ	ー	ク	ス	ル	ー
に	て	確	認	し	た	。																		
3	.	2	.	1		結	果																	
	当	初	の	予	定	と	お	り	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	完	了	し	た	。				
プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	日	程	、	開	発	コ	ス	ト	と	も	に	計	画	内	に	お	さ	め
る	こ	と	が	で	き	て	い	る	。															
こ	れ	は	、	品	質	対	応	策	の	効	果	で	あ	る	と	評	価	し	て	い	る	。		

論文添削結果（クイック）

2013.02.28 みんなのS E創研

添削者：佐藤 創

【添削情報】

論文提出者：●●●●

問題：平成23年度 問2

【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

なおクイック添削は短時間で添削を行うことから、添削結果での指摘の漏れが発生する可能性がございます。通常の添削結果に比べて精度にばらつきが発生しやすい点につきましてはご了承をお願い致します。

[目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
5. 今後の学習に関するコメント

1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの特徴
 1. 1 プロジェクトの特徴
 1. 2 プロジェクトの特徴を踏まえて設定された品質目標
2. 品質目標の達成のための品質計画
 2. 1 品質目標の達成を阻害する要因と判断した根拠
 2. 2 要因に応じて品質計画に含めた品質確保策
3. プロジェクト制約を考慮した工夫
 3. 1 プロジェクト制約に応じた品質計画上の工夫
 3. 2 工夫した結果の評価

2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、「1. 論文見出し構成の例」に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	①プロジェクトの概要について端的に述べられていること。 ②プロジェクトの特徴について今後の論述の布石になるような内容を適切に述べていること ⇒むしろ論述に関係しない内容は述べないほうが望ましい。また 3.1 節で、プロジェクト制約を踏まえた工夫を述べる必要があるので、事前にプロジェクト制約（予算や納期）について触れておくこと。	1.1 節では、1.2 節と 3.1 節に関連する内容を記載する。他の設問とのつながりを意識して論述を行う必要がある。
1. 2	①プロジェクトの特徴を踏まえて設定された品質目標を述べていること。 ⇒プロジェクトの特徴に関連した品質目標であること。また自分勝手に設定した品質目標ではいけない。プロジェクトの特徴を踏まえることで、品質目標はおのずと設定される。 ②品質目標は具体的な内容であること。 ⇒具体的な数値目標にまで落とし込まれた品質目標を述べること。	また 1.2 節で述べたプロジェクト品質目標は、3.2 節で評価の対象となる。
2. 1	①プロジェクトの計画策定段階において判断した要因であること。 ⇒プロジェクト計画段階の論述である。プロジェクト実行後に察知した品質目標の阻害要因を述べてはいけない。 ②品質目標の達成を阻害すると判断した根拠について明確に述べられていること。 ⇒プロマネの視点から、品質目標の達成が阻害される根拠を述べる。	
2. 2	①阻害要因への対策（品質確保策）が具体的に述べられていること。 ②阻害要因への対策（品質確保策）が有効である理由が述べられていること。 ⇒効果のある有効な対策であることが客観的に判断できること。 ③品質確保策は、品質計画に盛り込む内容であること。 ⇒プロジェクト計画段階の論述であること。また単なる対策ではなく、対策によって品質確保ができる対策であること。	

3. 1	①1.1 節で述べたプロジェクト制約が、どのように品質計画に影響を与えるかを述べていること。 ⇒予算が少ない、納期が短い、といった制約が、品質計画の実行にどのような影響を与えるかをプロマネの視点から分析していること。 ②プロジェクト制約を守りつつ品質確保をするための工夫を具体的に述べること。 ⇒プロジェクト制約を変えたり、制約を取り払ったりする論述ではなく、制約と品質確保を両方実現できる工夫であること。 ③工夫を行うことでプロジェクト制約と品質確保の両方を満足できる理由が明確に述べられていること。	
3. 2	①工夫した結果の顛末について具体的かつ簡潔に述べること。 ⇒品質目標の達成度合いを述べること。 ②結果についてプロマネの客観的な評価と、改善点・反省点などを述べること。 ⇒工夫に対して一定の評価ができる、といったニュアンスで述べること。	

本問題は頻出の品質管理がテーマで、また今までの出題観点と大きく異なるところもありませんので、対応はしやすいかと思います。

論述の自由度も高いですが、設問ウにて、設問イの対策を行う中で、予算や納期といった制約も満足するための工夫を問われています。品質と、予算・納期のトレードオフを扱う問題ですが、品質を犠牲にしない形で工夫した点を述べる必要があります。

上記以外にも、設問間のつながりを意識しなければならない箇所がありますので、以下に記載します。この内容を把握できていれば、比較的対応は容易な問題です。

- ・ 1. 1 節 : プロジェクトの特徴の論述 ⇒ 1. 2 節でプロジェクト特徴を踏まえた品質目標を述べる必要あり。
- プロジェクトの制約の論述 ⇒ 3. 1 節でプロジェクトの制約（予算・納期）を満足するために行った工夫を述べる必要あり。
- ・ 1. 2 節 : 品質目標の論述 ⇒ 3. 2 節の評価で、品質目標の達成度合いの評価を述べる必要あり。
- ・ 2. 1 節 : 品質目標の達成を阻害する要因の論述 ⇒ 2. 2 節で要因に対応した対策を述べる必要あり。

3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
C	内容が不十分である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一歩である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	B	合格水準にあと一歩
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること ・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること	C	内容が不十分
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること ・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること ・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること ・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること	C	内容が不十分
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること ・論文としてふさわしい文章表現であること ・文章の内容が理解しやすいこと ・助詞などの用法に誤りがないこと ・誤字脱字がないこと	B	合格水準にあと一歩

4. 講評

添削者が考える講評について示します。なお頂いた論文に赤字でコメントを入れておりますので（コメントは本添削結果の末尾に添付）、講評と合わせてご確認頂けると幸いです。

設問アでは、1. 1節でプロジェクトの特徴について論述が求められておりますが、本論文ではプロジェクトの概要などの論述しかなかったため、題意を満たしていないと考えます。また、3. 1節で述べることになるプロジェクト制約については、プロジェクトの特徴の1つであると考えられますので、1. 1節でしっかりと述べる必要だったと考えます。1. 2節では、品質目標の記述が具体的ではない箇所があったのと、「データ品質」が品質目標として適切ではないと考えました。「データ品質」とは、「データの精度」とか「データの詳細度」といった意味合いの言葉であると考えます。また、データはシステムへインプットされるものであり、システムのスコープ外のものでありますから、システムの品質目標として掲げることが妥当ではないと考えます。もし、データ品質を品質目標として掲げても良いと判断される場合は、その判断が妥当であることが読み手に伝わるように詳細な論述をして頂きたいと考えます。この点については修正が必要になりますので、ご確認下さい。

設問イでは、施策の内容自体は特に問題があるとは思いませんが、論述が全て結果論となっており、プロマネがどういった情報を基に、どういった根拠でその結論を導いたのかが、読み取れません。論文では、プロマネの考えと行動を具体的に論じることが基本です。単に結論のみを述べるのではなく、結論に至るまでのプロマネの考えや検討の因果関係を具体的に述べてほしいと思います。この点について、「論理性」の評価が低くなっています。また、プロマネの考えが論述されていないことから、プロマネの創意工夫やプロマネの存在感が感じられない論文となっており、「プロマネの創意工夫」についても評価が低くなっております。

また、論述全体を通じて具体性が乏しいと考えます。原因としては、いくつかの対策を述べすぎているからだと思います。対策は1つか2つまでにとどめておき、特に重要と感じた対策について狭く深く論述することが合格への近道です。この点につきましても、大幅な修正が必要になると考えますので、ご確認をお願い致します。

設問ウにおいても、結論のみの論述が先行しており、論文ではなく「プロジェクト報告書」のような印象を受けます。この点を修正する必要がございます。

5. 今後の学習に関するコメント

全体的に具体的な論述が少なく、「なぜ筆者であるプロマネがそのように考えたのか」の根拠を論文から読み取ることができず、正しく論文を評価できなかつたと感じます。論述したいテーマや方向性については、ご自身の経験から導かれたものであることが伺えますので、その点では評価できますので、もう少し具体的・客観的な論述を心がけて頂ければ合格論文になると思います。

論文は文章だけで表現をしなればなりませんから、論述をしながら「この表現だけで相手に誤解なく意図が伝わるだろうか」とか、「客観的な事実に基づいて論述しているだろうか」といった点に注意して頂ければと思います。

以上、添削結果のご確認の程よろしくお願い申し上げます。
ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けると幸いです。

以上

プロジェクトの特徴が述べられておりません。本論文では以下の2点のみ言及されています。

- ・プロジェクト概要
- ・PDM導入の目的

少なくとも、3.1節で述べるプロジェクト制約については述べてください。PDM導入の目的は題意から外れているため、削除したほうがよいと考えます。

[illegible]

[illegible]

氏名：

問：平成○年度 問○

2/3

は	電	子	デ	ー	タ	と	し	て	管
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

タ	登	録	の	観	点	で	品	質	確
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2 . 2 品質計画に盛

1) パフォーマンクス

	P	D	M	で	使	わ	れ	る	デ
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---

術 者 と 業 務 要 求 に 詳

パ フ ォ ー マ ン ス と 業

討	を	実	施	し	た	。	シ	ス	
---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

つ	た	の	で	業	務	上	問	題
---	---	---	---	---	---	---	---	---

こ　と　に　し　た　。

[illegible]

動 な ど に も 影 響 す る

[illegible]

い	問	題	点	は	、	業	務	プ

ム	パ	フ	オ	ー	マ	ン	ス	が

の	K	P	I	で	あ	る	生	産	△

データ品質とは「データの精度」や「データの妥当性」という意味だと思いますから、品質目標ではない点について既に指摘をさせていただきましたので、この点についても修正が必要になります。

なお、「データ登録の観点で品質確保が難しい」といった表現では、具体的にどのようなところで品質確保が難しいと、プロマネが考えたのかが論文から読み取れません。論文は、プロマネの考えや、その考えを導いた根拠の論述を中心に述べて頂く必要がございます。つまり、結果の論述に加え、その結果を導いた過程についても論理的に述べるものです。結果だけを淡々と述べたのでは、プロジェクト報告書のような文書になってしまい、論文としての体裁を保てません。この点にご留意して修正をして頂きたいと思います。

この文章も「結果論」しか述べていません。この文章を読むと、以下のような疑問が沸きます。

- ・なぜデータ構造や機能を把握視してる技術者を文字エ検討を実施したのか。そうすることが妥当だと判断したのはなぜか？
- ・システム処理が完了しなくても良いとは具体的にどういった意味か？
- ・なぜ、システム処理が完了しなくても良いと判断したのか？その判断が妥当である根拠は何か？
- ・業務上問題がないレベルとは、具体的にどんな水準なのか？どうやって確認を行おうと考えたのか？

読み手は、上記の内容を読んで評価します。結論を導く過程の論述を読まなければ、筆者のプロマネとしての経験や能力を判断できないからです。論述のスタイルを「結果論型」から「結果と過程型」に変換させませんと、合格水準に到達できない可能性がございますので、ご確認をお願い致します。

この文章も全て「結果論」しか述べていません。また、「エラー処理など画面の挙動などにも影響するので」といった程度の曖昧な論述になっています。もっと具体的に論述をする必要があります。あれもこれも対策を述べるのではなく、特に重要だと考える1つか2つの施策について、しっかりと掘り下げて論述を行ってください。

論文は文字数が限られていますから、どの論述内容をピックアップし、どの論述内容は切り落とすのかを、適切に判断して述べる必要があります。この点を意識して、特に重要と考えた1つか2つの対策について、具体的に掘り下げて因果関係を明確にしながら、丁寧に論述をしてください。

800

に 検 証 を 行 っ て 同 意 を 得 た 。

ま た 、 サ ー バ 集 約 に よ る パ フ ォ ー マ ン ス 問 題 は 他 事 業
部 の P D M を 使 っ た ウ ォ ー ク ス ル ー に よ り 早 期 の 段 階 で
洗 い 出 し を 実 施 す る こ と に し た 。

2) デ ー タ 品 質

要 求 内 容 と デ ー タ 移 行 と の 関 係 を 早 期 に 洗 い 出 し 、 問
題 が で そ う な 内 容 を 確 認 す る こ と
に し た 。

図 面 デ ー タ を O C R 処 理 な ど で 対 応 で き る 内 容 を 技 術 者
に 既 存 シ ス テ ム の デ ー タ を 使 っ て 確 認 さ せ 、 対 応 が 不 可
能 な 内 容 を 切 り 分 け た 。

データ品質についての論述は削除し、適切な品質目標
に関する論述に修正する必要があります。

ここでは、当初のプロジェクト制約を満足するための工夫を述べます。例えば納期面についての制約を取り上げるのであれば、手戻りによる進捗遅延への対策を述べるのではなく、そもそも納期が厳しいので、納期の制約を満足するために、期間短縮の工夫を盛り込んだ点を述べてください。なお、プロジェクト制約については、1.1 節にしっかりと事前に述べておく必要があります。それがプロジェクトの特徴になるからです。

本節は以下のような順番で論述します。

- 1) 納期の制約が存在する
- 2) 品質目標を達成するために施策を実施する計画とする
- 3) 全ての施策を実施すると、工数が増加し、納期を満足できない可能性について述べる（できれば定量的に）
- 4) 品質目標を達成しつつ、納期も満足するための工夫を述べる
- 5) その工夫を行うことで、納期と品質目標を満足できる根拠を述べる

で 次の プロセス に入る という、ゲート管理を徹底するこ

とにより、品質問題のリスクを減らせ

ここも結論の論述しかありません。

また、OCR や 非同期処理 など 技術検証も日程に影響が

でる可能性があった。

3 . 2 対応策の工夫とその結果

3 . 2 . 1 対応策

ウォークスルーでは、他事

時的に借り、動作する P D M

たウォークスルーを要件定義

策

ク ス ル ー の 重 要 度 が 極 め て

、手戻りによる納期遅れに

に依頼し業務側の5拠点の

い、全員の同意をとった上

で 次の プロセス に入る という、ゲート管理を徹底するこ

とにより、品質問題のリスクを減らせ

また、OCR や 非同期処理 など 技術検証も日程に影響が

でる可能性があった。

3 . 2 対応策の工夫とその結果

3 . 2 . 1 対応策

ウォークスルーでは、他事

時的に借り、動作する P D M

たウォークスルーを要件定義

問題・原因・対策・期待効果の4つを常にセットで論述してください。

う	に	よ	り	認	識	ズ	レ	が	起	こ	り	難	く	す	る	工	夫	を	し	た	。			
	業	務	機	能	に	お	け	る	非	同	期	処	理	は	要	求	か	ら	想	定	さ	れ	る	重
要	な	機	能	を	個	別	の	技	術	検	討	を	行	い	品	質	の	確	保	を	す	る	と	共
に	、	そ	の	結	果	を	重	要	機	能	の	ウ	オ	ー	ク	ス	ル	ー	に	お	い	て	、	ユ
ー	ザ	に	レ	ビ	ュ	ー	し	た	。															
デ	ー	タ	移	行	に	お	け	る	O	C	R	の	正	確	性	は	既	存	シ	ス	テ	ム	の	実
デ	ー	タ	を	使	っ	て	技	術	検	証	す	る	こ	と	に	よ	り	、	そ	の	実	現	性	を
確	認	し	、	技	術	的	な	対	応	が	不	可	能	な	デ	ー	タ	は	そ	の	デ	ー	タ	を
初	め	て	使	う	時	に	ユ	ー	ザ	に	注	意	を	促	す	機	能	を	追	加	し	て	製	品
品	質	を	確	保	で	き	る	か	を	、	業	務	側	も	含	め	た	ウ	オ	ー	ク	ス	ル	ー
に	て	確	認	し	た	。																		
3	.	2	.	1		結	果																	
	当	初	の	予	定	と	お	り	フ															
プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	日	程	、															
る	こ	と	が	で	き	て	い	る	。															
こ	れ	は	、	品	質	対	応	策	の	効	果	で	あ	る	と	評	価	し	て	い	る	。		

目次の表題は「工夫の結果と評価」として、評価についても述べている点をはっきりとさせたほうが良いと思います。

あまりにも簡潔すぎる内容です。もちろん本節はダラダラと長く論述する事はもとめられておりませんが、それでも、工夫を行ったことの顛末を簡単に追記するなどして、もう少しだけ膨らませて論述をして頂きたいと思います。評価内容の論述についても、プロマネが客観的な視点から評価できる能力を論文から読み取りたいために、設問で問われているのです。あまりに簡単な記述では、プロマネが客観的な評価ができていることを読み取る事はできません。